

高山樗牛 美学者、倫理学者、文芸評論家。鋭い名文句で人気を得るも早世、天才のエッセイストと惜しまれた。

たかやまちよぎゅう

廃藩置県・1871 = 羽前国(山形県)鶴岡城下で旧荘内藩士の次男に生まれ、

明治6年政変 1873 = 2歳：実父の兄の高山家へ入籍。

以後、養父の転任に従って、山形・福島に移住し、

..... 1880 = **9歳**：

明治14年政変 1881 = 10歳：

帝国憲法発布 1889 = **18歳**：

第二高等中学(後の第二高等学校)を経て、

帝国大学文科大学哲学科に進み、

日清戦争始・1894 = 23歳：*在学中{読売新聞}の懸賞小説に「平家物語」に材を取った悲恋物語「滝口入道」が入選し注目され、{帝国文学}発刊に参加、{太陽}の記者となり、「わが袖の記」がヒットする。

白馬会・・・1896 = 25歳：帝大を卒業。第二高等学校教授となったが、学問の活性化をめざしてエッセイストの道を選び、

八幡製鉄始・1897 = 26歳：辞任して*博文館に入社、雑誌{太陽}の主筆となり、「日本資本主義を賛す」以降、

子規句歌革新1898 = **27歳**：評論「小説革新の時機」「ワルト・ホイットマン」。大学での師井上哲次郎らとともに、日清戦争後の国家主義的思想を代表する論客として、鋭い批評文を精力的に書いていたが、

ビブ国産化・1900 = 29歳：文部省から海外留学を命じられるも、出発直前に「咯血して入院、療養生活に入る。

田中正造直訴1901 = 30歳：*病中の評論「美的生活を論ず」以降、ニーチェ賛美・"美的生活"の提唱・日蓮研究へとめまぐるしく変化し、外山正一や森鷗外らと盛んに論争、本能に基づくロマン的な意志の確立という姿勢は一貫し、「無題録」の「吾人は須らく現代を超越せざるべからず」の名文句で知られる。

教科書疑獄・1902 = 31歳：「日蓮上人とは如何なる人ぞ」。*論文「奈良朝の美術」で文学博士となるも、病状が悪化し、没した。